

ニューズレター雪氷北信越

No. 47

平成8年1月12日

(社) 日本雪氷学会北信越支部発行

目次

第3回理事・幹事会合同会議報告／学習会・講演会・研究会報告／学習会・
視察会・講習会・講演会・研究会の案内／話題／ニュース／新刊ニュース／
刊行物案内／支部賞／その他

報告

平成7年度第3回理事・幹事会合同会議

平成7年12月8日(金)15時30分より、けさじろ荘(長野市今朝白1丁目)において、本年度第3回理事・幹事会合同会議が開かれ、報告会では、平成7年度支部活動状況の中間報告、及び会計の中間報告が行われた。支部長から、12月1日に本部事務局で行われた「普及活動に対する自由な意見交換会」の話題が紹介され、教育の輪を広げていってほしいという一般的な人や、新たな分野の人々が報告された。開設はどうかという意見が出て、今後検討して行くこととなった。

学習会

長野地区学習会報告

平成7年12月9日(土)、信州大学教育学部において、小林詢氏から「雪のつくる山地の地形」と題し、氷河地形、残雪による雪食地形、雪崩のつくる地形など、雪の働きによってできる国内外の様々なる地形について紹介して戴いた。雪崩や、最近発生したマデある雪形などとは深い縁のある話題であり興味深かったが、参加者は6名と、寂しい学習会となってしまったのが残念であった。

(矢島幹事 記)

学習会

石川地区学習会報告

石川地区では、金沢大学工学部で、12月11日(月)15時30分～17時に「北陸の酸性雨・雪について」と題した学習会を開きました。講師の中川千枝先生(金沢大学医学部衛生学教室)は、酸性雨・雪の生成メカニズム、酸性物質の由来、土壌の緩衝作用等について、自ら測定したデータをもとにして講演されました。聴衆は、環境問題の大きなテーマの一つである酸性雨・雪問題の重要性を再確認しました。尚、参加者は12名でした。

(村本幹事 記)

講演会

雪と地域づくり講演会の報告

福井県は、毎年12月1日～7日を雪に備える週間として定め、雪に関する啓発活動等が行われてきている。その中の行事の一環として開催された。

主催：福井雪害対策研究会／福井県雪対策・建設技術研究所／
(社)日本雪氷学会北信越支部

後援：福井県雪技術研究会

日時：平成7年12月4日(月) 13:30～16:00

場所：福井県職員会館(福井市)

プログラム：

1)雪のレジャー施設開発と地域の活性化

勝山東急リゾート開発(株) 支配人 和田 諭氏

2)私と雪との関わり

福井新聞社 生活文化情報部 記者 泉 志穂氏

3)雪国の住生活環境について

福井工業大学 教授 前田博司氏

なぜ雪は嫌われるのか、なぜ好きになれないのか。雪と地域づくりの議論は最近珍しくないが、素朴な疑問について考え、雪対策研究との接点で何かが見えないか。今回の主旨では雪は嫌だとの意見が圧倒的に多い。理由は、屋根雪下ろしや雪に備える準備、自動車交差への支障などがあげられているが、はじめから嫌なものだ、と決めつけられている面が大きいのか。雪対策の現状や雪の利用を実感すれば見方は変わるのではないか。若年層ほど嫌だと思える意見は少なく、将来的にはイメージが変わることに希望が持てるのではなからうか。

参加者26名。対話を交えたアットホームな講演会であった。

(杉森理事 記)

連絡会 & 研究会

雪氷防災研究連絡会 & 雪氷防災研究会 開かれる

長岡雪氷防災実験研究所は岐阜県と共催で、平成7年12月13日(水)に高山市において、1995年度雪氷防災研究連絡会(第9回)および雪氷防災研究会(第20回)を開催した。

連絡会(9:30～12:00)には19機関から46人が出席、51課題が20人から発表された。また、「知恵と技術で冬を楽しく」をテーマにした研究会(13:00～16:30)は85人の参加者があり、5人の講師の方々から講演の後、活発な総合討論も行われた。

岐阜県内でも雪を活用した地域おこしに取り組んでいる自治体があり、今回のテーマ「知恵と技術で冬を楽しく」が生かされていることを実感させられました。

雪氷調査研究概要集および雪氷防災研究会梗概集の原稿をご提出いただいた皆様にお礼申し上げます。

なお、当日配布した上記概要集および梗概集をご希望の方は、下記までご連絡下さい。

〒940 長岡市栖吉町前山187-16

長岡雪氷防災実験研究所 第1研究室 五十嵐高志

TEL. 0258-35-7522 FAX. 0258-35-0020

(五十嵐高志 記)

学習会	新潟地区学習会のお知らせ
日時	平成8年2月8日(木) 17:30~19:00
場所	農林水産省 北陸農業試験場 (上越市稲田1-2-1)
講師	北陸農業試験場 横山宏太郎 (第35次南極観測越冬隊長)
題目	南極の一年
内容	南極の自然と観測隊の生活や、南極観測と地球環境のかかわりなどについて、スライドを交えて紹介されます。
問合せ先	横山宏太郎 (北陸農業試験場 気象資源研究室) TEL. 0255-26-3234 FAX. 0255-24-8578

観察会	雪氷観察会のお知らせ
内容	雪氷の専門家以外の一般の市民を対象として、雪に対するいろいろな疑問を解くための雪氷観察会が下記のとおり開催されます。
日時	平成8年2月11日(日) 10:30~15:30 (荒天でも実施しますが、積雪のない場合は延期します)
会場	長岡雪氷防災実験研究所周辺
対象	小学生~一般
主催	長岡市立科学博物館 / (社) 日本雪氷学会北信越支部
問合せ先	長岡市立科学博物館 TEL. 0258-35-0184

講習会	富山地区 積雪観測講習会のお知らせ
	「雪を観るー観測と講演」
内容	積雪の断面観測や降雪の観察などを実際に行うとともに、雪についての講演を行います。
日時	平成8年2月3日(土) 13:30~16:00
場所	立山少年自然の家 (中新川郡立山町芦峯寺字前谷1 TEL. 0764-81-1321)
内容	1) 講演 ・立山の雪ー近年の変動からー 飯田 肇 (富山県土木部砂防課) ・雪結晶の観測 石坂雅昭 (富山市科学文化センター)
	2) 観測会 会場の周辺において
参加費	無料
問合せ先	富山市科学文化センター 石坂雅昭 TEL. 0764-91-2123 FAX. 0764-21-5950

講習会

平成7年度新潟・長野地区

積雪調査法講習会のご案内

講習題目：積雪調査法

日時：平成8年2月24日（土）9:00～15:30

会場：科学技術庁長岡雪氷防災実験研究所

〒940 長岡市栖吉町前山187-16

（積雪が少ない場合は実習地を変更することがあります。その際は幹事から参加者へ直接連絡いたします。）

講師：遠藤八十一氏（農水省森林総研）、和泉薫氏（新潟大学災害研）、
納口恭明氏・五十嵐高志氏（長岡雪氷防災研）、佐藤和秀氏（
長岡高専）

日程と講習内容：

9:00～ 9:20 受付・班分け・昼食申し込み
9:30～ 9:45 講師紹介
9:45～11:00 講義（積雪調査法の概要と測器の説明）
11:00～12:00 長岡雪氷防災実験研究所の紹介（研究所員による）
12:00～13:00 昼食
13:00～15:30 野外実習（積雪の層構造と雪質の観察、雪温・密度・積雪相当水量などの測定、雪の含水率の測定）

定員：16名（先着順）。（申し込みが少ない場合は中止することがあります。）

申込締切り日：2月9日（金）までに、申込書に所定事項を記入し、
郵送またはFAXにて下記へご連絡下さい。

送付先：〒947 小千谷市蔭生乙 小千谷高校内 田村盛彰
TEL:0258(83)2262, FAX:0258(82)0646, 自宅TEL/FAX:0258(33)3820

参加費：テキスト、実習材料等の実費を含みます。

正会員・購読会員＝2,000円、学生＝1,000円、非会員＝3,000円
（講習当日に徴収いたします）

* 申し込み受付後、改めて詳細な案内をお届けします。

* 講習会終了後、後日修了証を交付いたします。

（講習会幹事 田村・佐藤）

積雪調査法講習会申込書

氏 名

（正会員、購読会員、非会員、学生） ○で囲んで下さい。

所 属：

連絡先：住所／〒

電話番号：

FAX：

案内

気候講演会のお知らせ

「地球温暖化を考える」

日時：平成8年1月24日（水）14時～17時

会場：科学技術館サイエンスホール
（東京都千代田区北の丸公園2-1）

主催：気象庁、（財）日本気象協会

後援：運輸省、（社）日本気象学会、（財）気象業務支援センター

入場料：無料（先着400名）

問合先：気象庁 総務部 企画課 気候変動対策室
TEL:03-3212-8341（内線2263）

講演：（仮題）

①地球温暖化と海

東京大学海洋研究所 野崎 義行 教授

②地球温暖化の最新の見通し

気象研究所気候研究部 鬼頭 昭雄 第一研究室長

③地球温暖化問題の科学と政治

三菱化学生命科学研究所 米本 昌平 社会生命科学研究室長

案内

平成7年度 雪対策研究会のご案内

日時：平成8年2月19日（月）13:30～16:30

場所：新潟県庁講堂

テーマ：雪の保存と利用－雪室、雪冷房の現状と課題－

概要：雪室氷室、雪冷房、雪の保存などを実践している機関の担当者による実践事例の発表、意見交換を通して、担当者のネットワーク化を図るとともに実践上の課題解決の一助とする。

事例発表

野菜、球根、酒等の雪中貯蔵

雪冷房

融雪水の利用

雪まつり等での利用のための雪の保存

意見交換

講演、アドバイス（予定）

室蘭工業大学助教授 媚山 政良

新潟県高冷地農業技術センター専門研究員 諸我 敏夫

利雪しんせつ協会会長 樋口 利明

主催：新潟県

問合先：新潟県 企画調整部 地域政策課 雪対策室
TEL.025-285-5511（代表） FAX.025-285-3790

話題

日本雪氷学会 インターネットにホームページを開設

学術情報センターは、学術団体に対してインターネットを通しての「WWW資源」の提供を開始いたしました。本学会も理事会、総務委員会、学術情報センターの検討を経て、この「WWW資源」を利用して、学会の学術情報を提供することになりました。とりあえず、雪氷ダイレクトリ（個人情報を除く）をもとに、雪氷学会ホームページの試作版を作製いたしました。下記のURLでご覧いただけますので、試作版についてのご意見を学会事務局までお寄せ下さい。より良いホームページにバージョンアップしていきたいと思っております。

URL=<http://www.soc.nacsis.ac.jp/jssi/>

* 平成7年12月15日より、事務局でも電子メールが使えるようになりました。メールアドレスは下記の通りです。

J90101@sinet.ad.jp

ニュース

気象新聞 (WEATHER BUSINESS TODAY) 創刊

1994年の気象業務法の一部改正に伴い、民間気象事業にも多彩な展開が見えつつある。このような背景の中で、刻々と進む気象事業の動向を伝える情報誌として、『気象新聞 (WEATHER BUSINESS TODAY)』が（財）気象業務支援センターから1995年10月に創刊された。創刊号（A4判8頁）より平成8年3月号までは、試行期間として毎月1回（20日）発行し、その後は読者の意見を参考にしながら発行回数を見直しを行うとのことである。値段は各号1部300円（送料、消費税込み）である。

問い合わせ・申し込み先

財団法人 気象業務支援センター

〒101 東京都千代田区神田錦町3-17

TEL.03-5281-0440 FAX.03-5281-0443

（河島幹事 記）

ニュース

関東・中部・西日本支部ニュースより

（No.33 1995.12.20発行）

- ・私の見た雪：（株）工学気象研究所 木島美恵子
- ・南極ドームふじ基地から：
- 第36次南極地域観測隊-（（株）ジオシステムズ） 田中洋一
- ・北米における寒地工学教育について（前号の続き）：
パシフィックコンサルタンツ（株）北海道支社 中澤直樹
- ・雪崩対策の基礎技術研修会のお知らせ
- ・積雪観測法講習会のご案内（北信越支部）
- ・気候講演会「地球温暖化を考える」開催のお知らせ
- ・（社）日本雪氷学会関東以西支部 私たちが応援します：
古河電気工業株式会社

『地理9月号増刊 第40巻第9号（臨時増刊号）通巻476号
世界の山やま アジア・アフリカ・オセアニア編』
岩田修二・小崎尚・小野有五編/古今書院/B5判/163頁/定価2,800円

『地理10月号増刊 第40巻第10号（臨時増刊号）通巻478号
世界の山やま ヨーロッパ・アメリカ・両極編』
岩田修二・小崎尚・小野有五編/古今書院/B5判/165頁/定価2,800円

上記2書は、『月刊地理』の増刊号として1995年9月及び10月に発行されたものである。両書とも、①世界中の色々な場所の山を取り上げ、②その多様な自然のありさまや成り立ちを述べ、③写真・地図・ダイアグラム等によって具体的な山の姿を知ることなどをねらいとしている。単なる写真解説集ではなく、多彩な執筆者により、山岳における自然の全貌とともに人間生活のかかわりについて触れられている。これまで写真集やテレビで紹介されたことがない地域の山が多数みられ、目を楽しませてくれる。
（河島幹事 記）

『雪花譜－自然の造形美と不可思議の世界－』

高橋喜平・古川義純・高橋雪人・稲雄次・三品隆司 著
講談社/A5判/127頁/定価1,500円

本書は、講談社から刊行されている、「講談社カルチャーブックス」の1冊である。5人の著者により、積雪の表情、雪結晶、雪のデザイン、雪の祭りと遊び、雪のやさしい科学、雪国の伝説などが、多くの美しいカラー写真や図とともに、わかりやすく記述されており、一般の教養書格好のものといえる。

なお、本書の「雪と氷の用語」の「雪形」の解説に、長岡・鋸山の「川の字」と妙高・神奈山の「はね馬」の写真が使われている。このようなマイナーな雪形が一般書に登場するのは、おそらくこれがはじめてであり、雪形マニアにとっては要チェックの本である。

（納口幹事 記）

『基礎雪氷学講座第Ⅱ巻 降雪現象と積雪現象』

菊地勝弘・大畑哲夫・東浦將夫 著
古今書院/A5判/272頁/定価6,695円

昭和61年に配本が開始された「基礎雪氷学講座」（全6巻）の3回目の配本（第Ⅱ巻）として刊行されたものである。内容は、「第1章 雲の形成」、「第2章 気団の変質と降雪機構」、「第3章 積雪と積雪現象」、「第4章 大規模積雪域の分布と変動」、「第5章 各地域の積雪の特性」、「第6章 複雑な地形と地表面状態の積雪」及び「第7章 積雪と環境」の7章から構成されている。

前半の2つの章では降雪のメカニズムについてふれ、3～6章までは積雪の特性や分布・堆積過程について述べられている。最後の章では、積雪が社会生活に与える影響について述べるとともに、利雪についても触れられている。

（小林幹事 記）

案内

各支部発行の刊行物案内（最新情報）

北海道支部

「北海道の雪氷 14号」（1995年） 500 円

申込は下記へ

〒060 札幌市北区北19条西8丁目
北海道大学低温科学研究所 西村 浩一
TEL. 011-706-5478 FAX. 011-706-7142

東北支部

「東北の雪と生活 10号」（1995年） 1,500 円

申込は下記へ

〒020 盛岡市上田4-3-5
岩手大学工学部建設環境工学科 平山 健一
TEL. 0196-21-6447 FAX. 0196-21-6460

北信越支部

「雪氷北信越 15号」（1995年） 1,000 円

申込は下記へ

〒940 長岡市栖吉町前山187-16
長岡雪氷防災実験研究所 納口 恭明
TEL. 0258-35-7522 FAX. 0258-35-0020

関東・中部・西日本支部

「関東・中部・西日本支部ニュース No.33」 200 円
(1995年12月)

申込は下記へ

〒464-01 名古屋市千種区不老町
名古屋大学大気水圏科学研究所 中尾 正義
TEL. 052-789-3477 FAX. 052-789-3436

支部賞

1996年度支部賞授賞候補者推薦の申し出について

1996年度支部賞授賞候補者の推薦には、支部の理事および評議員が、下記の項目を記載して4月10日までに書類を支部事務局へ提出することとなっております。

候補者にお心当たりの方は、期限に間に合うようにお近くの理事あるいは評議員へお申し出下さい。

記

- (1) 雪氷技術賞、大沼賞、雪氷功労賞の区別。
- (2) 推薦者の氏名、所属、職名。
- (3) 授賞候補者の氏名（または団体名）、所属、職名。
- (4) 推薦理由書（○○○の功績などの授賞表題を掲げ、800字ほどにまとめたもの）。
- (5) 上記の理由書を証明する関係書類があれば添付する。

その他

『ニューズレター雪氷北信越』について

ニューズレターに関するお問い合わせは
長岡雪氷防災実験研究所 小林俊市

TEL. 0258-35-7522
FAX. 0258-35-0020

までお願いします。